

朱鷺の島環境再生リーダー養成ユニット

実施機関：新潟大学（総括責任者：高橋 姿）

実施期間：平成 22～26 年度

プロジェクトの概要

新潟大学における研究・技術の蓄積を地域に還元し、生物多様性関連業務に従事する人材を養成することで佐渡市の地域再生に貢献する。具体的には、トキとの共生をシンボルとする「エコアイランド佐渡」を掲げ、それを構築・運営していくために必要とされているリーダー的能力を持つ人材を養成するユニットを組成する。当該ユニットは、生物多様性の観点から3つのサブユニットで構成し、このサブユニット単位で人材養成を行う。各サブユニットは、5年間で各4回（10月開講、9月修了）開講する。新潟大学教員に加え、科目に応じて佐渡市職員、環境NPO、環境省、林野庁などの専門家により指導を行い、所定の単位を修得した者を修了生と認定する。定員は1年で70名とし、5年間で280名とする。修了後も大学と佐渡市がフォローアップを行い、効果的・継続的な人材養成を進める。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性の見通し	中間評価の反映
A	b	a	s	s	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プロジェクトは、トキの野生復帰と関連して、地域の自然再生や循環型農業、エコツアーや環境教育・行政等の分野に従事して先進的な循環型社会をリードする職業人を養成する取組である。過疎化の進む佐渡という不利な条件の下、養成修了者数は目標に達していないものの、多様なコースによる多様な人材の育成を大学と地域が緊密に連携して適切に進められ、地元への経済効果も見られつつあるなど大学が地域再生に貢献するきっかけとなったことは評価できる。今後は、トキのブランドを生かし、環境を重視する企業等のバックアップを受けた事業の発展を期待する。

- ・**目標達成度**：養成修了者数は211名と目標280名は達成できなかったが、原因分析を実施し、カリキュラムに積極的に改善策を取り入れていることは評価できる。今後は、新規の人材養成に加えて既修了者の実力向上のための教育を行うことを期待する。
- ・**人材養成手法の妥当性**：修学旅行生の受け入れ、野生トキの鑑賞ツアーなどの地域へのニーズの変化に対応した幅広いコース設定を行い、フォローアップ体制を拡充している。また、修了生に対するアンケート調査及び外部評価を実施し、カリキュラムの改善も行われていることなどから、人材養成手法は妥当であると評価できる。
- ・**実施体制・自治体等との連携**：佐渡市の出資による寄附講座の開設、市職員による運営委員

や講師としてのユニットへの参画など地元自治体の積極的な関与が見られ、その結果として大学と自治体との間に緊密な連携、信頼関係が構築されていることは高く評価できる。

・**人材養成ユニットの有効性**：養成修了生は過疎化、高齢化の進む離島環境の中で、里山観光やエコツアーなど持続可能な分野で活躍しており、地元への経済効果も見受けられる。また、修了生が中心となったNPO法人の立ち上げ等、修了生の活躍の場の創出にも取り組むとともに、エコツアーガイドベーシックコース修了生を対象としたアドバンスコースの開講等、修了生へのフォローアップ体制についてもよく検討していることなどは高く評価できる。

・**継続性・発展性の見通し**：実施機関の取組として後継事業協議会が設置され、佐渡市が推進する事業と連動できる見通しがある点は評価できる。多様な方向性の人材養成を包括的に進めるプロジェクトとして、今後は、島の環境の認識を深める里山ガイド等の育成を通して地元の活性化を図るとともに、最終的には、自然環境の生物多様性の回復の実現に資する人材の養成も期待する。

・**中間評価の反映**：熱意のある集落に的を絞って受講者の募集を行うなどの広報の強化、補講の実施や受講しやすいカリキュラム体制の構築などの取組により、第三期と第四期の応募者数、修了者数が第一期、第二期に比べて増加するなど、中間評価での指摘に適切に対応しているものと評価できる。